

32 加藤土師萌 葱文大皿

昭和五年（一九三〇） 陶磁

径四一・三 高六・八

一点

春の風物詩・葱坊主を図案化した飾り皿である。写生に基づきつつも、葉の直線や葱坊主の円形、房の波線を強調するなど、当時の流行であったアール・デコ様式の特徴を示す図案構成である。しかし作品の細部を見ると、葉の深みのある緑釉はむしろ線の鋭さを強調することなく、その輪郭をぼかすように溶け出して滲みを呈し、周囲に掛けられた黄みの強いクリーム色の釉葉は根本の辺りで結晶化して斑になっている。また、小花を集めた葱坊主は漂白されたかのように仄かに白く発色し、皿全体の醸し出す雰囲気は都会的なスタイリッシュな機能美よりも、白日夢のようなまどろみのなかにあるぼんやりとした印象である。加藤土師萌の非凡な才能を示す初期作品としても貴重であるが、昭和初期の工芸作品の特徴を知る上でも重要な作品である。

加藤土師萌（一九〇〇～一九六八）は瀬戸の出身で始めは図案を学び、岐阜県陶磁器試験場の技手であった昭和五年の第十一回帝国美術院展覧会に本作を出品、秩父宮雍仁親王の御買上となつた。雍仁親王薨去後、御遺愛の品として勢津子妃より昭和天皇へ献上された。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections